

日本生体医工学会 2023 年度第 3 回理事会議事録案

日時：令和 5 年 10 月 20 日(金) 14:00～17:00

会場：ME 技術教育委員会 会議室 + Web 併催

<出席者>

理事長： 黒田 知宏

副理事長： 原口 亮

理事： 前田 義信、松本 健郎、守本 祐司、白石 泰之

監事： 大城 理、椎名 毅

<Web 出席者>

副理事長： 芦原 貴司

理事： 小川 充洋、加藤 博史、川田 徹、木村 裕一、西條 芳文、
佐久間 一郎（兼 関東支部長）、杉町 勝、中島 一樹、成瀬 恵治、平田 雅之、
山家 智之、横澤 宏一

監事： 村垣 善浩

<オブザーバー・出席者>

事務局長： 磯山 隆

幹事： 坪子 侑佑（兼 若手研究者活動 WG 長）、木村 雄亮、板井 駿

オブザーバー： 鍵山 善之（甲信越支部長）、杉本 直三（関西支部長）、福岡 豊（編集委員長）、
高田 宗樹（第 64 回大会長）、杉原 伸宏（第 43 回甲信越支部大会長）、
中西 義孝（生体医工学シンポジウム 2023 組織委員長）、
川口 拓之（NIRS 解析・計測技術研究会）

<欠席者>

理事： 坂田 泰史、松村 泰志

オブザーバー： 家入 里志（九州支部長）、石原 謙（中国・四国支部長）、
大橋 俊朗（北海道支部長）、嶋津 秀昭（北陸支部長）、渡邊 英一（東海支部長）、
渡邊 高志（東北支部長）

<理事会議題>

0. 理事会の成立 黒田 理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 12 名の出席と監事 3 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 【その他 6】学会事務委託先に関わる管理規程の改定 木村 理事

学会事務委託先の変更に係る管理規程（資料 V5）の改定について報告された。

一般社団法人学会支援機構から株式会社 PCO への委託先の変更に加えて、齋藤奨学事業の設立を考慮して第 2 条(5) 選奨及び助成事業に係る業務(6)学会の運営に掛かる業務が追加された。また、会員・会計・その他管理業務における事務局長の委託先への定期的な訪問に関して、オンラインでの確認を可能とする旨が変更された。さらに、一週間に一度の確認を一か月に一度の確認としたい旨について報告された。

文章について以下 3 点の修正が打診され、

- ・(全体) 第 1 条に PCO を「委託先」と記述することを明記して、PCO→委託先に変更
- ・(第 3,4,5,6,7,8,9 条) オンライン若しくは直接→オンラインで若しくは直接に変更
- ・(第 6 条) 無い→ないに変更

これらの修正をもって承認し、内閣府公益等認定委員会に提出されることとした。

2. 【報告 その他 5】2022 年度決算に基づいた財務状況の外観 小川 理事

2022 年度決算に基づいた財務状況の外観について報告された。

まず、2021 年度には COVID-19 に由来する赤字の残りは 1,067 万円であったが、2022 年度の経常収益は経常費用総額を 1,390 万円上回っており、COVID-19 由来の赤字を取り戻したことで、また単年度における公益事業も例年と同程度の健全性を維持していることが報告された。

具体的には、総財産は 1,400 万円ほど増加し、法人会計や公益事業会計についても概ね問題がない。公益事業収入で 1,117 万円の黒字となっている理由としては、ME 試験収入の黒字幅が 2019 年度と比較して 1,510 万円増加していることが主たる理由と考えられる。ただし、2021 年度の 2,348 万円の黒字に対して、2022 年度では 2,048 万円の黒字に留まっており、これは 2020 年度の試験中止による 2021 年度の一過性の受験者数増加によるものと考えられるため、今後の受験者数の増減に注視・分析し、その黒字が妥当なものであれば当面は問題ないものとして継続していきたい旨が報告された。また、今後の課題としては、2021 年度までに取り崩した 4,800 万円の基金の復活がある旨、さらに今年度から見込まれる費用として、事務所移転経費、「ME ができる大学」の予算があるため、念頭に置いておく必要があることが報告された。

ME 試験の受験者数については、2023 年度の 6,100 名に対し、2022 年度 6,300 名、2021 年度 7,100 名程度となっており、再開後は毎年微減で日本の人口減が反映されていると考えられる。そのためこの人数を維持し続けるのは難しいが、この先数年に限って言えば問題はないとの見解が示された。

3. 【審議 財務委員会】インボイス制度への対応 中島 理事

2023 年 10 月 1 日から開始したインボイス制度に伴い、日本生体医工学会は適格証明を取得しているため、当会の課税売上については、発行を求められればインボイス（請求書、領収書、見積書等含む適格請求書）で発行する必要がある。なおインボイスでの発行を求められなければ、

これまで同様の様式でも発行は可能である。

セミナー形式（講師を招聘する講演等）の場合は会員非会員とも 10%課税、研究発表会形式（会員の演題申込・発表）の場合は会員不課税、非会員 10%課税となり、これに係る領収書について下記の対応が求められる。

【インボイスを発行した場合に増える作業】

① 下記 2 点の提出

- ・発行リスト（領収書No.、発行日、内容（参加費）、相手先名（宛名）、金額、入金日）
- ・控え（再現性のあるもの）

※紙で控えを残す場合は控え原本、データで残す場合も領収書控の様式で確認がとれるデータ（データー一覧のみは不可）

②返金が生じた場合の返還インボイスの発行

③消費税計算 1 取引（1 枚の領収書）につき、端数処理は 1 回のため、2 名分を 1 枚の領収書で発行した場合、1 名分の消費税×2 で消費税額を計算することは不可（3 名以降も同様）

インボイスでの発行を求められる場合にのみ発行という対応にした場合、インボイス対応の課税領収書、インボイスでない課税領収書、不課税領収書を発行することになることもある。一方で、インボイスを求める人がいない場合、これまで通り 1 種類の発行のみ、インボイス対応なしとなることもある。上記を勘案した学会としての本制度への対応方針について審議が依頼された。より詳細な議論については、事務局の喜多様よりご説明いただいた上で行うこととした。

4. 【報告 C】日本学術会議 未来の学術構想 について 佐久間 理事

本会より日本学術会議に提出した「生体－人工物の融合を通じて高い QOL を実現する持続可能な社会・生態系のための革新的生体医工学の創成」が、未来の学術振興構想の No.33（グランドビジョン⑤）に収載された。この内容でセコム財団より研究費を供与するべくプロジェクトを募集し審査している他、学会大会でも継続して議論を進めていきたい旨が報告された。また、会員でこの内容に沿ったグループを形成して大型予算に申請していただきたい旨も合わせて依頼された。

5. 【報告 E】国際委員会報告 松本 理事

今年度の国際委員会のメンバーが、松本 理事を委員長とした 13 名で確定した旨、また IFMBE の代表として松本 健郎 理事、植野 彰規 先生、白石 泰之 理事が選出されたことが報告された。加えて、IFMBE Asia-Pacific Activities Working Group へ国際会議協賛依頼があり（Liangzhu Forum: Advanced Silk Science and Technology for Medical Application、2023/11/24-26、杭州）、これを国際委員会で審議し承認した旨が報告された。

国際委員会の委員名簿について、木村 理事の名前に誤記があったため、修正が依頼された。

また関連情報として、Council of Society という年一度各学会から人を集めて行うミーティング

があり、来年はこれが 2024 年 6 月 9 日-13 日にスロベニアで開催(EMBECE 2024 と併催)されることが共有された。これは年に 1 度、会員である学会がいずれかの国際学会で集まり情報共有を行うものであり、この会議への国際委員会からの人員派遣が推奨され、人員の選定が松本理事に依頼された。

6. 【審議・報告 F】編集委員会報告及び課題 横澤 理事

福岡編集委員長より、委員構成が確定した旨について報告された。

次に、ABE 誌の Review Paper の募集に対し海外の若手研究者から執筆希望があったが、その内容が当該分野の理解度不足なものが多かったため、Call for Proposal of Invited Review Paper を改訂した旨が報告された。具体的には、Invite ではない場合には著者情報を要求すること、内容によっては Revise や Reject が発生し得る旨が追記された。また、ABE 誌の投稿フォームにおいて、倫理事項や投稿データ情報、学会会員登録の有無の解答欄が難解であったため、選択項目やチェックボックスの追加によってインターフェースを改良した旨が報告された。

最後に、ABE 誌の Article Publishing Charge (APC) 改訂案について審議された。現在、ABE 誌では First Author あるいは Corresponding Author が会員の場合は掲載無料、それ以外の場合は APC として 300 USD を請求している。一方 Web of Science に収載されている Engineering, Biomedical 分野のオープンアクセス誌は 1,000 USD 以上の設定であり、他誌と比べて本誌の APC 設定はかなり低い。これに起因してか、海外からの投稿が増加傾向にあるが、その内容は査読に値しないレベルの原稿がほとんどである。査読は人的および金銭的リソースを消費するため、Editor-in-Chief が査読に値しないと判断した場合は、コメントを付して受け付けないという対応をとっているが、海外からの投稿件数が急増するとこの対応も限界に達することが予想されるため、1,000 USD への値上げが提案された。この額の根拠として、「生体医工学」誌に 6 ページの論文を掲載する場合の掲載料とも（為替レートにより上下するが）およそ同程度の設定となっていることが挙げられる。また、元々無料であった APC を 300 USD にした際にもある程度の効果が認められたため、本提案の妥当性が予想されている。本提案は全会一致で承認された。

なお、編集体制（エディター団）と生体医工学会の委員会としての編集委員会は別物であり、外国人エディターは ABE 誌の編集委員のみで、本会のメンバーには加えないことが編集委員会にて決定された旨が報告された。

また、編集委員は随時変更があるためその都度更新し、内閣府への報告の際には当該時点のメンバーで報告する旨が確認された。加えて、若手研究者への Review Paper 執筆の奨励も依頼された。

7. インボイス制度への対応【審議 B】 事務局

2023 年 10 月 1 日から開始されたインボイス制度への対応について報告された。当会の課税売上について、発行を求められた場合にインボイス（請求書、領収書、見積書等含む適格請求書）で発行する必要がある。インボイスでの発行を行う場合、インボイスの書式に合った各種書面の

作成が必要であり、更に本部で発行の控えを保存する必要がある。そこで今後の支部会、研究会などでの領収書の発行について、はじめからインボイスでの発行にするか、あるいは要望があった際にのみインボイスでの発行とするか審議いただきたい旨が報告された。

本件について、どのような場合にインボイスでの発行が要求されるのか質問され、相手方が適格事業者である場合、インボイスでの発行が必須になる旨が回答された。また、学会や支部大会で学生が発表した場合の参加費、および出張などの旅費は研究費で払う形になる場合もあると考えられるが、その場合、大学へは適格領収書である必要がある可能性が高く、かなりの場合での確領収書の発行が求められる旨が報告された。また、領収書の発行とともに電子帳簿の作成と保管が必要かどうか質問され、日本生体医工学会は電子帳簿保存法の対象学会ではなく、関係ないが、領収書発行の一覧表を、発行者に作成していただき、その控えを本部に提出していただく必要がある旨が回答された。その場合、紙での発行の場合は領収書と同時に発行する控えを提出していただければよいが、電子発行の場合は発行リストのみでは不完全であり、PDF 化した領収書の提出が求められる旨が報告された。また支部会や専門別研究会、およびサマースクールなどでの領収書の発行が行われた場合も、本部での保管が必要である旨が報告された。また、領収書控えの保存期間は、10 年である旨が報告された。クレジットカードでの決裁が行われた場合について、その場合は領収書をダウンロード形式とし、領収書を払うとともに、同様の原本性のあるものを大会事務局側で保存する必要がある旨が回答された。また、銀行振込の場合は、これまで領収書を出さなかった場合もあったが、どのように対応すべきか質問され、請求書、領収書、見積書あるいは納品書のいずれかが適格請求書の形式に沿っていれば問題なく、その場合は請求書がインボイス形式であれば問題ない旨が回答された。また、情報交換会費などの場合はどのように対処すべきなのか質問され、支払いが発生しない場合は対応の必要は無いが、する場合は課税対象となるため、インボイスでの対応が必要な旨が回答された。これはランチョンセミナーの企業に対する請求書などの対応についても同様であり、学会員の大会費、および学会費以外の支払いについては、基本的には課税対象となる旨が回答された。

以上より、はじめからインボイス型での発行を行うことで、全会一致で承認された。また、本件について、インボイス領収書の作成、保管手順についてマニュアル化する必要があり、中島一樹理事と事務局の方で手順書を作成していただくこととし、手順書の作成後、学会誌や大会などを通じてインボイス対応についての周知を行うこととした。ME 試験事務局の方でも対応が必要であるため、理事会後に確認することとした。

8. 第二種 ME 試験【審議 H】 守本 理事

第 2 種 ME 技術実力検定試験の可否判定会議が 10 月 16 日に開催された旨が報告された。審議の結果、試験問題の 1 問で採点処理システムに誤った正答選択肢が入力されていたことが判明し、再度採点処理を実施することになった旨が報告された。再採点処理後のデータ資料は後日報告されることとした。

本件について、誤った問題の採点はどのように対応するのか質問され、問題自体を採点の対象外とし、受験生の不利益にならないようにする旨が回答された。本内容について全会一致で承認

された。

次に、第 2 種 ME 技術実力検定試験中に発生した、マークシートの紛失について報告された。試験会場において、受験生には試験開始 1 時間後より退出を許可しており、その際は受験生の挙手に対応し、監督者は受験者がマークシートを持ち帰らないよう受験者退出に際して注意をはらうとともに、マークシート以外をすべてカバンにしまわせて、最後にマークシートを裏返させて退出させている。紛失事故が発生した東京会場のスタッフにヒアリングを行ったところ、退出可能となったタイミングで多数の退出希望者が発生し、不正行為とならないようにマークシート以外を片付けるところまでは注視するが、退出希望者が多い状況では離席までの一挙手一投足を監視するのは難しい状況であったとの報告を受けた。そのため試験会場側が無くした証拠、および受験生が持ち帰った証拠のいずれも無い旨が報告された。また、過去の試験でも同様の事案があるが、それらは全て受験者の持ち帰りであり、マークシートの所在は明らかになっており、その場合は不正行為として採点を行わなかった旨が報告された。なお、受験者の持ち帰りによるマークシートの紛失は、今回も福岡会場、大阪会場で生じており、これらについては過去の事例に則り、採点を行わない対応を取る旨が報告された。

今回の東京会場の事例に対し、受験生に対する対応として、以下の 2 点を該当受験者に提案、いずれかを選択していただく予定である旨が報告された。

(提案 1) 午後のみ新たに問題を用意して試験を実施し、午前答案とあわせて合否判定を行う。

(提案 2) 午後分のマークシートが所在不明であるため、試験不成立として返金する。

また、今後については事故対策委員会を設置し、次年度以降に向けての対策を議論する予定である旨が報告された。

本件について、提案 1 の場合、問題はどのように作成するのか質問され、過去の問題より適切なものをピックアップして出題する予定である旨が回答された。また、今後は受験生に伝える内容として、マークシートを持ち帰ってはいけない旨をはっきり伝達すべきである旨が報告された。また、本事例は公表した方が良く、公表のための文章を作成した上で、理事会内で確認することとした。

以上より、紛失事故に関する対応について、全会一致で承認された。また、対策委員会については後日報告することとし、事例の公表については黒田理事長、守本理事の間で文案を作成し、メール審議での承認を行うこととした。

9. 生体医工学シンポジウム 2023 実施報告【報告 O】 中西 組織委員長

生体医工学シンポジウム 2023 の実施報告が行われた。本会は 2023 年 9 月 8 日（金）、9 日（土）の 2 日間にわたって、熊本城ホールにて開催され、無事に終了した旨が報告された。参加者は合計 370 名であり、情報交換会への参加者は 105 名であった。ポスター演題数は 209 演題であり、コロナ明けのためか例年よりも多くの参加者となった旨が報告された。本会の収支についても報告された。収入における熊本県からの補助金 150,000 円については確定しているが、まだ入金されていないため、暫定のものではあるが、収入、支出ともに 3,141,839 円である旨が報告された。熊本県からの入金があれば新たに連絡する事とした。

本件について、会計計算上、本部助成金は 600,000 円とし、残りの額を本部特別補助金として分けて処理した方がよい旨が報告され、最終報告時に修正する旨が回答された。

10. 第 63 回日本生体医工学会大会について【報告 Q】 前田 理事

第 63 回日本生体医工学会大会について、現状の報告が行われた。大会 HP は既に公開済みであり、開催予定日は 2024 年 5 月 23 日（木）～ 25 日（土）の 3 日間、かごしま県民交流センターにて開催予定である旨が報告された。プログラム委員や編集委員は未決定であり、決まり次第改めて理事会で報告することとした。

本件について、九州支部内で連絡を取っていただき、急ぎ組織委員の構成と予算を理事会に提出していただきたい旨が指摘された。

11. 生体医工学シンポジウム@東大開催要領について【審議・報告 Q-1】 佐久間 理事

生体医工学シンポジウム 2024 の開催要項について報告された。開催予定日は 2024 年 9 月 12 日（木）～ 14 日（土）で、東京大学 本郷キャンパスにて開催予定である旨が報告された。また本会は LIFE 2024 と合同開催の予定であり、総合受付、特別講演（ホール）および懇親会は共通の会場で実施し、口頭発表（ホール）およびポスター発表は別会場での開催を予定している。参加費は 2 つの学会で同額とし、一般会員、および一般非会員は 9,000 円、会員学生、および非会員学生は 4,000 円とする予定である旨が報告された。なお、シンポジウムは事前参加登録のみとし、当日の参加登録は実施しない予定である。また、シンポジウムと LIFE は、区別なく自由に双方のセッションに参加可能とする旨が報告された。また、運営経費の扱いについて、過去 5 年の参加人数比を基に、LIFE とシンポジウムで 3 : 2 で収入を按分することを原則とし、支出については内容に応じて LIFE とシンポジウムで区別する予定である旨が報告された。

本件について、抄録などを含め、一体化するのか質問され、それらについては別々に作成を行い、会場自体も分ける旨が回答された。また、前回の理事会報告では、シンポジウムの開催期間は 2 日間と報告していたが、LIFE の開催期間と合わせ、3 日間での開催とした旨が報告され、2 学会の間で連携・融合ができるような企画も検討している旨が報告された。また、生体医工学会より出されるシンポジウムの助成金 600,000 円について LIFE 側との区別を厳格にしていきたいと思います旨が報告された。

以上より、参加費の額について、全会一致で承認された。また、今後の軽微な変更については学術担当理事に一任することとした。

12. 生体医工学シンポジウムの選奨【審議 Q-2】 前田 理事

2023 年 9 月 8 日（金）～ 9 日（土）に熊本城ホールで開催された生体医工学シンポジウム 2023

のベストリサーチアワード、ベストレビューワーアワード、ベストポスターアワードの3点について報告された。

まず、2023年度のベストリサーチアワードについて報告された。今年度は応募37件であった。ここ数年の授賞件数は1～3件であるため、最低2件として最終的な件数は点数分布に応じて検討した（昨年度は応募14件中2件）。年ごとのばらつきを考慮し、先に基準点を決めることはしなかった。9月6日の選奨委員会での評価点はレビューワー2名の評価が完了している論文の点数が上位から、

1. 80.5 点
2. 80.0 点
3. 79.5 点
4. 76.5 点
5. 76.5 点・・・

であったため3位と4位の間で線を引くこととして3件に授賞した。

2024年度に向けて、受賞者の論文が返却になることがないように、編集委員会と連携する。今年のレビューワーにGoogle Formから点数を登録してもらう方式を次年度もそのまま踏襲し、若干名（1～3件）に授賞する方針である。点数化の基準は以下である。

- (1) 論文の主旨は分かりやすく明確に述べられている。（配点20点）

研究背景、解決すべき課題、方法、結果、考察が適切な分量で記述されている。

- (2) 第1版投稿時の原稿は十分に文章推敲されている。（配点20点）

誤字・脱字がなく、主語と動詞の関係、単位は適切に記述されている。

- (3) 図や表、参考論文は適切である。（配点20点）

図表のサイズ、文字サイズ、単位は適切に記述されている。

図表の説明は適切である。

参考文献は、適切な質と量であり、執筆要領に従った記述である。

- (4) 新規性や独創性が高い。（配点30点）

論文に記載された内容には独創性や新規性がある、あるいは学会（生体医工学）や産業界に貢献する。

- (5) この論文の研究・開発内容には今後の発展性が見込まれる。（配点10点）

診断、治療、看護、介護、管理、負担軽減、経済性、効率などの向上が期待される。

次に、ベストレビューワーアワードについて報告された。

2023年度について、エディタがレビューワーのレビューについて40点満点で評価した。提出フォームに、査読者をレビューワーアワードに推薦するか否かのチェックボックスを設け、推薦する場合はその理由を記入していただき、この段階で21名が推薦された。

集計結果に基づいて、シンポジウム特集論文の総編集委員長および副編集委員長が候補者を15名選出した。エディタからの推薦があり、なおかつ点数が34点以上の査読者が選出された。

15名の候補者について、選奨委員会では討議のうえ承認したが、公益社団法人として若干名

がふさわしいため、点数に基づいた絞り込みを行い、最終的には 39 点以上の 4 名に授賞した。

2024 年度には、Editorial Manager 中にあるレビューワー評価 (0-100) を用いて判定する。従来設けていた「推薦する」というチェックボックスを廃止し、エディタによる評価点の高い若干名 (1~3 名) に授賞する。点数化の基準は以下である。

D : 40 点・・・評価に値しない。

C : 60 点・・・真摯に取り組んでいる。問題箇所を抽出できている。指摘事項に誤りがない。締切や査読手順に配慮している。

B : 80 点・・・C の基準に加え、
分かりやすい。問題点が明確になっている。説明に過不足がない。分かりやすくするための配慮がある。

A : 100 点・・・C と B の基準に加え、
教育的あるいは建設的である。著者がなすべきことを明確にしている。
論文化や研究の進展に貢献している。細部にまで目が行き届いている。

次いで、ベストポスターアワードについて報告された。2023 年度は、選奨委員ごとの担当演題を指定せず、全員で全体を選奨する形式を採用した。A から F までの 6 セッションであり、B のみ CE セッションだったので、他とは対象演題数が少ない結果となった。全セッションで授賞件数は 1~2 件としており、B セッションでは対象演題数が少ないことを考慮して 1 件とした。評価者数は各セッションでほぼ同数であった。

セッション	対象演題数	授賞件数	評価者数
A	32	1	25
B	10	1	23
C	33	1	24
D	28	1	25
E	31	2	28
F	32	1	20
合計	166	7	39 (1 回以上評価していただいた方の数)

2023 年度は例年になく講演登録数が多かったため、ショートプレゼンテーションの時間を 1 分で試みたが、講演数が多かったためポスター前での議論の時間が取れず、審査員がすべてを審査することが出来なかったこともあった。

2024 年度の東京開催ではさらなる講演登録数の増加が見込まれるため、ショートプレゼンテーションの廃止も視野に入れて進めたい。また、審査員の担当講演を予め割り当てておき、さらに、審査員には胸に審査員ワッペンをつけていただき、審査員であることを見せて優先的に講演者と議論できるようにして審査できないミスを防ぐ方針で臨み、各セッションで 1 名ないしは 2 名に授賞する予定である。

上記の報告に対して、2024 年度は会期が従来の 2 日間から 3 日間に拡大されるため、ショートプレゼンテーションやポスターセッションの議論の時間を確保できるのではないかとの意見があった。また、ショートプレゼンテーションを現行の 3 分から 1 分、もしくは 30 秒程度まで短くする案も出たため、前田理事と木村理事とでご相談いただき、次回理事会以降にて方針について報告されることとした。

13. 第 64 回生体医工学会大会（福井）について【報告 Q-3】 前田 理事

2024 年度の第 64 回日本生体医工学会大会の準備状況について報告された。

大会については、2025 年 6 月 5 日（木）～ 7 日（土）に、フェニックスプラザ（福井県福井市田原 1 丁目 13 番 6 号）にて開催され、懇親会は 2025 年 6 月 6 日（金）時間未定で、会場はハピテラス（福井県福井市中央 1 丁目 2-1）を予定している旨が報告された。

14. 2023 年度 YIA 開催・選奨報告【報告 R】 坪子 若手研究者活動 WG 長

2023 年度の第 62 回日本生体医工学会大会にて開催された第 6 回 Young Investigator's Award (YIA) の開催報告と選奨報告がされた。

2023 年度は永岡 隆 先生（近畿大学）を実行委員長として、若手研究者活動 WG で応募者増加に向けた議論を重ねた。今年度は、大会事務局の協力のもと、一般演題応募フォームに YIA への応募フォームを設置いただき、「応募する」をクリックするだけで YIA へ応募できるようにした。一般演題募集にあわせ、2022 年 12 月 5 日に YIA のウェブサイトも公開した。

一般演題の締め切りにあわせて YIA の募集も締め切り、最終的に医学系・工学系の基礎研究から応用研究まで、非常に幅広い分野にわたる 100 演題（医学系 20、工学系 74、分野未回答 6）の応募があった。

一次選考では、抄録を若手研究者活動 WG の審査員（工学系 10 名、医学系 6 名）で審査し、その結果、医学系・工学系各 3 名の優秀演題が選出された。優秀演題については 2023 年 4 月 4 日にウェブサイト上で公開された。

2023 年 5 月 19 日（大会 2 日目）の第 1 会場において、一次選考選出者 6 名による口頭発表が開催された。

本年度の新しい取り組みとして、医学系・工学系の各 1 名に送られる最優秀賞に加え、全体で最も萌芽性の高い発表者に特別賞が授与された。

また、発表においても、他分野の研究者にも理解できるわかりやすい発表、研究に対する本人の寄与のアピール、自身の研究がどのように社会に役立つのか、今後どう発展させたいのかといった、一般発表セッションとは異なる、審査員にインパクトが残るような魅力的な発表を選出者に事前に依頼した。発表時間 10 分、質疑応答 10 分を確保し、質疑応答におけるパフォーマンスも審査対象とした。本年度はそれらに加え、発表中の邪魔にならない程度の応援、小道具等のパフォーマンスを許可した。実際のセッションでは、ライブ会場を思わせるような団扇での応援、クイズ形式を採用した発表など、手探りではあったが非常に盛り上がるような取り組みがいくつ

か見られた。本セッションは当日参加した若手 WG の 12 名（工学系 8 名、医学系 4 名）で審査し、結果は同日中に集計され、臨時総会後の表彰式において以下の黒田 理事長より表彰された。

最優秀賞（2 名）

M 系：堀井 和広 氏（岐阜大学）

発表演題：光干渉断層撮影装置（OCT）を用いたモルモット蝸牛における超音波の受容領域探索

E 系：伊藤 有生 氏（名古屋工業大学）

発表演題：関連疾患を考慮した少音読課題の発話解析に基づくパーキンソン病検出

優秀賞（3 名）

大谷 和暉 氏（近畿大学）

発表演題：画像スタイル変換を用いた教師無し異常検知による FDG-PET/CT 像上肺病変強調
藤井 一真 氏（東京電機大学）

発表演題：再建乳房術中支援のためのリアルタイム乳房形状差導出システム

矢崎 優翔 氏（北里大学）

発表演題：Selective Photothermolysis を応用した低侵襲レーザー皮膚治療の開発：ラット真皮中コラーゲン密度の定量評価

特別賞（1 名）

間庭 大智 氏（東京電機大学）

発表演題：呼吸波形画像と機械学習を用いた乳幼児睡眠時無呼吸検出システム

上記の報告に加えて、100 演題もの応募があったことについては、対面開催に戻り 2 回目の開催であったことや、応募フォーム制度変更の効果があったと考えられる旨が報告された。

また、受賞者が若手 WG に参画いただけることも増え、若手 WG 当初の目的であった若手研究者のネットワーキング構成の一助にもなっていることにも言及され、2024 年度大会においても板井 駿 先生（東北大学）を実行委員長として第 7 回 YIA を開催予定である旨が報告された。

15. 論文賞・坂本賞の選定委員について【審議 K-1】 黒田 理事長

2023 年度の本会各賞の選定委員会の構成について報告された。

論文賞・坂本賞については委員構成が確定し、新技術開発賞、臨床応用研究賞・荻野賞についても一部の先生の内諾を待っている状態であるため、委員構成については全会一致で承認された。研究奨励賞・阿部賞については、委員長の森 健策 先生（名古屋大学）から委員のご推薦を待って、メール審議とすることとした。

16. 学会の価値向上を目指す取り組みについて【審議・報告 R-5】 原口 副理事長

高校生・大学生・企業にとって価値のある学会を目指した取り組みの進捗について報告された。

まず、1つ目の取り組みとして、生体医工学ができる大学・研究室のリストを掲載する Web サイト「ME ナビ」のモックサイト構築の進捗について報告された。

生体医工学ができる研究室リスト 7 件、生体医工学ができる大学リスト 2 件、生体医工学ができる大学院リスト 1 件、生体医工学ができる研究機関リスト 1 件がこれまでに掲載されており、サイトに使用する画像の選定と著作権処理の役務を 6 月に契約した。すでに画像 6 点を選定しサイトに反映済みであるため、修正や追加のご意見あればお知らせいただきたい旨が依頼された。

また、「生体医工学とは」に記載すべき内容についてご意見いただいたのち、2023 年 11 月 1 日頃に公開し、会員に周知したい旨が報告された。

審議事項として、掲載基準とその更新の方法案に関して、

- ・ 研究室リストについては、掲載基準として、本会会員からの依頼であれば掲載を認める→掲載依頼 Web フォームに会員であることのチェックボックスを設ける。
- ・ 大学リスト・大学院リスト・研究機関リストについては、公開情報をもとに担当者が記事を執筆する。
- ・ アップデート方法として、更新日が新しいものほどページ上部に掲載する。年 1 回アップデートのお願いを会員メーリングリストで周知する。

が挙げられ、全会一致で承認された。また、当該 Web サイトの運用が安定した段階で、適切な委員会に管理を移譲していく方針とした。

2つ目の取り組みとして、学会の価値を高めるイベントについて報告された。

これまでに出了アイデアとして、

1. 企業の情報提供コーナーを、大会・シンポジウムで設ける。就活マッチングなど
2. 企業に見学受入などを企画していただくことを検討する。
3. 大会に高校生が参加できる企画を検討する。

1) 大会期間中に高校生が参加して研究やモノづくりを体験するワークショップを開催する。

2) 論文コンテストを実施し、受賞者を大会に招待する。

が提案されており、1.として、2023 年 5 月の日本生体医工学会名古屋大会にて企画セッションを実施した旨が改めて報告された。

今後の方針は

- ・ 1.について次年度も同様のフォーマットでの開催を検討する。
- ・ 2.、3.について引き続き検討する。

ことが提案された。

審議事項として、2024 年の生体医工学会鹿児島大会で、2023 年度と同じフォーマットでキャリア開発セッションを企画することが提案された。

内容としては、

- ・ 120 分のセッションで、賛助会員各社による 5 分プレゼン＋個別懇談
- ・ 参加者が複数社回れるような工夫をする。個別懇談の時間を区切るなど。
- ・ 賛助会員各社からの登壇者・補助者の参加費を免除することを実行委員会に依頼する。
 - 2023 年名古屋大会では、登壇者については「非会員の招待講演者は無料」の大会ルールに基づいて参加費無料、補助者はキャリア開発セッションのみに参加することを条件

に参加費無料を実行委員会に個別交渉でお認めいただいた。

- 2023 年名古屋大会では、登壇者・補助者は人事担当者のみであった。一方研究開発担当者も個別懇談の支援に来ていたが、(おそらく学会員として) 参加費を支払って大会を聴講し、かつキャリア開発セッションの個別懇談の支援に来ていた。
- 懇親会費については免除する必要はないと考える。

上記について、全会一致で承認された。

また、3つ目の取り組みとして、学会から高校・高専への講師派遣が新規に提案された。

基本的なアイデアとして、

- ・ 高校生よりも、高校教員にアプローチする方が持続的と考えられる。
- ・ ME ナビサイト内の生体医工学ができる研究室リスト内に「高校への出張講義や課外活動のアドバイス可」のフラグを掲載する。
- ・ 高校・高専教員からリクエストを受け付けて、学会がマッチングする。
- ・ 派遣する学会員の旅費実費を学会が負担する。

ことが報告された。

検討事項として、

- ・ 上記アイデアについての、高校・高専教員の意見を募りたい→4件
- ・ 1年間の予算上限はどの程度か。
- ・ リクエストが多数ある場合に、どのように選ぶか。
 - 専門性よりも近隣であることを優先する。
 - 理事会開催のタイミングごとにリクエスト締め切りを設け、集まった中から必要経費の昇順にソートし、予算上限を超えない範囲まで選ぶ。会員1名あたり年1回まで。

が挙げられ、来年度中に開催できるよう準備していきたい旨が報告された。

上記について、引き続きご検討いただくこととした。

17. 日本生体医工学会定款の改正案について【審議 V-1】 原口 副理事長

日本生体医工学会定款の改正案について報告された。

まず、1点目として、事務局の移転に伴うもの変更部について報告された。

a. 基本方針

■ 9月理事会で承認された、事務局を委託する企業の変更に伴い、定款に記載されている事務所の住所を東京都文京区から富山県富山市へ変更する。

b. 改正対象となる規程類

■ 定款 第2条 → 本日審議

■ 学会事務委託先に関わる管理規程 → 本日審議

2点目として、博士課程学生の学会参加勧奨のための会員種別の一部変更に伴う変更について報告された。

a. 基本方針

■ 代議員選挙権を有する正会員を増やし、博士課程学生や若手の学会参加勧奨のため、以下の施策を行う。9月理事会で承認済み。

1. 準会員の要件を満たさなくなった場合（例：学部から大学院へ進学・就職）は、自動的に正会員となる。本人からの申請や推薦、理事会での承認は不要。

2. 準会員の要件は満たしているが自らの意思で正会員となる場合（例：医師以外の医療従事者）は、本人からの申込書は必要。理事会での承認は不要。

b. 改正対象となる規程

■ 定款 第7条 → 本日審議

■ 入退会および会員種別変更規程 9月理事会で承認済み

■ 入会金及び会費等に関する規程 9月理事会で承認済み

3点目として、齋藤記念奨学事業の開始に伴う変更について報告された。

a. 基本方針

■ 賞としての事業ではなく、奨学事業として本会の新たな事業の1つとして位置付けることについて過去の理事会で承認済み。内閣府公益認定等委員会への申請が必要。

■ 贈与税非課税の要件の1つとして、定款記載が必要な文言を追加する。"特別"よりも"特殊"のほうが法律上広い範囲の関係を指しているため。

b. 改正対象となる規程

■ 定款 第5条、第21条3項 → 本日審議

■ 助成規定 9月理事会で承認済み

■ 齋藤奨学事業基金に関する規程 9月理事会で承認済み

■ 齋藤奨学金授与候補者選定手続 9月理事会で承認済み

上記に対して、第7条3項：会員種別の変更については別途定める（本項は入会に係る部分であり、会員種別の変更には）こととして、黒田理事長と杉町理事で相談したのち決定することとした。その他の二つの事項については、原案のとおり承認された。

また、齋藤奨学事業を2023年度に設立するのであれば、1月に臨時社員総会、2024年度開始にするのであれば6月に臨時社員総会を開催する必要があるが、篤志家からの寄付を受けられる体制づくりを大至急進めたく、1月改訂の方針で黒田理事長と松村理事とで再度相談することとした。また、理事に齋藤先生との血縁関係がないかの確認も急ぎ進めることとして、11月初頭には内閣府との第2回目の調整を予定することとした。

準備の進捗によって、臨時社員総会を1月の理事会前に開催する必要がある場合はメール稟議することとした。

18. 中四国支部大会 選奨に関わる申請について【審議 X-3】 成瀬 理事

2023年10月28日（土）に開催される第46回日本生体医工学会中国四国支部大会における

「若手講演奨励賞」の選奨申請がなされた。

当該大会において発表する 39 歳以下の若手研究者を対象とし、選定委員会での審議に基づき 2 名の受賞者を決定して授与する。選定委員会は大会長を委員長として、他 5 名が委員を担当する。賞状を授与し、副賞は贈呈しない予定である。

上記の選奨申請について、全会一致で承認された。

19. 甲信越支部大会に係る選奨申請内容の変更について【審議 X-1】 杉原 支部長

2023 年 12 月 7 日（日）に開催される第 43 回日本生体医工学会甲信越支部大会における「優秀賞」の選奨申請がなされた。

当該大会において発表する学部、修士、博士課程在学中の者を対象とし、選定委員会での審議に基づき受賞者 1～3 名を決定して授与する。選定委員会は大会長を委員長として、当該大会に参加する支部役員複数名が委員を担当する予定である。賞状を授与し、副賞として記念盾を贈呈する予定である。

なお、本申請は、2022 年度第 5 回理事会で既承認であるが、開催日の 2023 年 11 月 10 日から同 12 月 7 日への変更、副賞の図書券 2,000 円分から同等額の記念盾へ変更、選定委員の当日参加の支部役員への変更についての審議依頼である。

上記の選奨申請について、変更点は選奨報告時に報告することとして、全会一致で承認された。

20. fNIRS 研究会での選奨について【審議 X-2】 川口 専門別委員長

2023 年 12 月 9 日（土）に開催される本会専門別研究会の第 28 回 fNIRS 計測・解析技術研究会における「優秀ポスター賞」の選奨申請がなされた。

当該研究会において、fNIRS の計測・解析技術に関して若手ポスター発表会において、学生、大学院生、学位取得後 5 年以内の者を対象として、優れた研究成果を発表した演者 1 名に贈呈する。選定委員会は研究会長を委員長として、幹事 2 名とその他 2 名程度の委員構成とする。賞状を授与し、副賞や記念品の授与は行わない予定である。

上記の選奨申請について、全会一致で承認された。

21. 東北支部大会での若手選奨に関する申請について【審議 X-4】 白石 理事

2023 年 11 月 25 日（土）に開催される第 57 回日本生体医工学会東北支部大会における「Young Investigator's Award」の選奨申請がなされた。

当該大会において発表する 35 歳以下の本会会員または学生で、かつ以前に本賞を受けたことがない者を対象とし、選定委員会での審議に基づき受賞者 2 名程度を決定して授与する。選定委員会は支部長を委員長として、委員長が指名する当該大会出席の本会正会員と名誉会員が委員を担当する。賞状を授与し、副賞として 10,000 円分の図書券を贈呈する予定である。

上記の選奨申請について、全会一致で承認された。

22. 関東支部若手研究者発表会における選奨について【審議 X-5】 佐久間 理事

2023 年 12 月 9 日（土）に開催される日本生体医工学会 関東支部若手研究者発表会 2023 における「優秀発表賞」の選奨申請がなされた。

当該大会において発表する 39 歳以下の若手研究者を対象とし、選定委員会での審議に基づき受賞者 7 名を決定して授与する。選定委員会は土肥 徹次 先生（中央大学）を委員長として、他 4 名が委員を担当する。賞状と副賞として賞金 1 万円を贈呈する予定である。

上記の選奨申請について、全会一致で承認された。

23. 日本医学会連合 臨時総会・会長候補者推薦【審議 V-2、V-3】 黒田 理事長

日本医学会連合の門田 守人 会長の急逝に伴い、10 月 13 日に日本医学会連合の臨時総会、および日本医学会臨時評議員会がオンラインにて開催され、会長選挙についての告知がなされた。会長、副理事長を含む理事が任期中のため、会長のみを、副会長等現理事の構成員から推薦することとなった。

日本医学会連合の加盟学会である本会は、会長候補者を推薦する権限を有しているため、10 月 30 日（月）17 時必着で会長候補者 1 名を推薦する。

上記について、理事長預かりとして、理事や他学会の理事長と相談して推薦者を決定したい旨が依頼された。

上記について、全会一致で承認された。

24. 前回理事会退会者の名誉会員候補について【審議】 黒田 理事長

退会希望者のうち、2023 年度第 1 回理事会にて退会希望のあった池田 研二先生が名誉会員の条件を満たしていたため、守本 理事より推薦された。

上記の池田 研二 先生のご推戴について、全会一致で承認された。

また、第 2 回理事会にて大会希望のあった松田 謙一 先生は甲信越地方の支部長をしていたご経験があり、名誉会員に推戴できる可能性がある。医療情報のご専門であることから、次回理事会までの推薦候補者の提案を松村 理事に依頼することとした。

25. 入退会審議【報告 W-1】 黒田 理事長

第 3 回理事会における入退会審査について、入会希望が正会員 3 名、準会員 6 名、退会希望が正会員 5 名、準会員 1 名である旨が報告された。

入会希望者のうち、推薦者欄が空欄、かつ略歴書の提出がないものが 7 件あり、そのうち 1 件は第 2 回理事会後に略歴書の提出を依頼済みである。この 7 件については入会を保留として略歴書、もしくは推薦者情報の提出を依頼し、その他の 2 名については入会を認めることとした。

次に、退会希望者のうち、池田 研二 先生、松田 謙一 先生を除く 5 名については、名誉会員推

戴の条件を満たしていないことから、退会を認めることとした。

上記について、全会一致で承認された。

26. 第 2 回理事会議事録の承認【審議】 黒田 理事長

2023 年度第 2 回理事会の議事録案について、修正希望があればメールにてご連絡いただくこととして、2023 年 10 月 24 日（月）正午をもって承認とすることとした。

以上

議事録署名人

議事録署名人

議事録署名人